



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2016年7月号



発行人：濱塚有史 編集人：君塚彩 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



「キャンプの思い出」

村上 かな (岩手県立大学看護学部4年 盛岡YMCAメンバーOG)

私が小学生の頃の楽しみと言えば、もちろん盛岡YMCAの野外活動でした。どうしてこんなに楽しい野外活動が毎月一回しかないんだろう、と不思議に思っていました。いつも月末の週末をワクワクしながら待ち遠しく思っていたことを覚えています。

野外活動の中でも一番楽しみにしていたのはサマーキャンプです。キャンプでは、いくつかのグループに分かれて活動します。そのグループの中には、前にアドベンチャーと一緒に遊んだことがあるお友だち、初めましてのお友だち、年は近いけれど学校は違うお友だち…などなど様々なお友だちがいます。私は内向的な性格だったため、友だちができるか不安に思っていました。しかし、リーダーたちが考えるプログラムや自由に遊ぶことができる時間、炊事、掃除等キャンプでの全ての体験をグループのみんなと一緒にやることで、自然とたくさんのお友だちと話すことができました。

キャンプの中でも印象的だったのは、炊事の時に薪を使って火をつけることから始めたことです。なかなか着火しませんが、みんなで諦めず挑戦し続け、最終的にご飯を作ることができ

ました。物事に一生懸命取り組むことで結果が生まれることも身を持って体験しました。

また、YMCAのキャンプはただ“楽しかった”で終わるキャンプではありません。けんかもすることもあれば、自分の思い通りにいかないこともたくさんあります。学校や家では普段経験できないようなことをすることで、たった1日や2日、3日という短い期間で、たくましく、そして少しだけ大人びて帰ってくることもありました。サマーキャンプは自分を成長させてくれる場でもあります。

私は今でも、あの時のサマーキャンプのことを思い出して、キャンプのうたを歌うことがあります。盛岡YMCAのサマーキャンプは子どもの時はもちろん、大人になっても私をワクワクさせてくれる宝物です。



☀サマーキャンプ大特集！☀

いよいよ7月からは、盛岡YMCAのサマーキャンプが始まります！今年はどんな夏をみんなと一緒に過ごせるかな？盛岡YMCAのリーダーやスタッフたちも、わくわくしながらキャンプの準備をしています。

各キャンプに参加するリーダーたちに、それぞれのキャンプの魅力や、キャンプに対する意気込みを語ってもらいました。

《わんぱくキャンプ》7/17～7/18 於：都南つどの森



こんにちは！わんぱくキャンプのメインを務めさせていただきます、チーズです。YMCAのサマーキャンプ、2016年の第一弾となるこのキャンプ。一步勇気を振り絞って、お家の方と離れてキャンプを経験する子がきつーと思えます。初めての子もそうでない子も、今回の1泊2日のキャンプで経験する新しい発見やお友だちとの出会いが、かけがえない思い出になり、自信に繋がるはず。私はそんな子どもたちと一緒に料理を作り、テントで寝て、たくさん遊べることをとても楽しみにしています。子どもたちの笑顔が輝くキャンプにしていきたいです！！よろしくお祈りします。

盛岡大学2年 小野寺保乃香（チーズリーダー）

《サッカーキャンプ》8/1～8/4 於：いこいの村岩手



こんにちは！サッカーキャンプに参加するますおです！サッカーキャンプでは、みんなとたくさんサッカーをして、熱く盛り上がりていきたいと思えます！最終日には岩手山カップという大会もあり、本気の試合をします！一緒に全力でサッカーをしましょう！サッカー以外にもプールで遊んだり、バーベキューをしたり楽しいことが盛りだくさんです。

最高の夏を一緒につくっていきましょう！たくさん参加待ってます！！

盛岡大学4年 東海林俊一（ますおリーダー）

《星空満天キャンプ》8/5～8/6 於：岩手山焼走り国際交流村



皆さんはじめまして！今回夏の「星空満天キャンプ」のメインを担当します、ダイラーです！私たちが住んでいる岩手県にはたくさんの素晴らしい自然がありますよね！山や海、川などなど、それぞれ魅力があります。でも、私たちにとっても身近な自然があります！それは…そう、星空です☆☆☆みんなでキャンプをして、夜になったら満天の星空をみんなで見上げる…そんな想像をただけでとってもワクワクドキドキしませんか？

キャンプが初めてでも、星についてあんまりわからなくても大丈夫！僕たち、YMCAの仲間と一緒にこの夏一番のキラキラした思い出を作りましょう！みんなの参加待ってるよー！

岩手県立大学2年 松平大知（ダイラーリーダー）

《森の大自然満喫キャンプ》8/7～8/8 於：外山森林公園



みなさんこんにちは！！マックです。森の大自然満喫キャンプでは、小さな生き物たち、こもれば、風の音、日常とは全く違う環境で、薪割り、火つけ、飯盒で米を炊いたり、色々なことに恐れずチャレンジします！！テントに泊まるのはもちろん、去年は滝を見に行ったり、キャンプファイヤーをしたりしましたよ。大自然の中

で、このキャンプでしかできないこと、日常生活では感じられないこと、新しい発見がたくさんあったキャンプにしたいと思っております！！

森の大自然満喫キャンプの仲間たちみんな、夏の最高の思い出となるキャンプを作りましょう！！わくわくしますね♪それではキャンプでお会いしましょう！

岩手看護短期大学2年 鬼柳琴（マックリーダー）

《島のわくわくキャンプ》8/9～8/12 於：休暇村気仙沼大島



みなさんこんにちは！あさりです！盛岡YMCAサマーキャンプを締めくくる「島のわくわくキャンプ」が始まります。このキャンプはどのキャンプよりも日数があり、みんなと過ごす時間がたくさんあります！だからこそみんなとたくさん遊んで、たくさん笑って…。みんなの笑顔と楽しさ溢れるキャンプにしたいと思っています。

参加してくれたみんなとしかできない最高の夏の思い出を作りたいです！

このキャンプには、個性豊かなリーダーたちが参加します。あさり、今からキャンプが楽しみでわくわくしています！！今年は誰に会えるかな♪とても待ち遠しいです。当日もわくわくしながら集合だ☆皆さんの参加をお待ちしています！！

盛岡大学4年 安久津里彩（あさりリーダー）



↑ 昨年のわんぱくキャンプより。やっぱりキャンプといったらテントにお泊まり！友達やリーダーと楽しい一夜を過ごします。



↑ リーダーたちに教えてもらいながら、まき割り体験！初めての体験にドキドキ！



↑ 気仙沼での一枚。キレイな海を満喫します！！



↑ キャンプ中には、さまざまな生き物に出会えます。初めて見る虫たちもいるかも！？

リーダー紹介コーナー♪

毎月恒例、リーダーがリーダーを紹介するこちらのコーナー。今回は、メカリーダーがマックリーダーを紹介します！

こんにちは、わたくしメカと申します。今回リーダー紹介をさせていただくことになりました！

まずはわたしの自己紹介から！わたしは、盛岡大学文学部英語文化学科2年の渡辺芽生、リーダー名はメカといいます。由来は身長がデカイことと名前が芽生ということが合わさってこうなりました！

盛岡YMCAは、あさり（安久津里彩さん・盛岡大学4年）が大学の部活の先輩ということもあり興味が湧き、昨年からお世話になっています！主に野外活動に参加していて、毎月子どもたちと会うのを楽しみにしています。

そして、わたしが今回紹介しようと思っていますのが鬼柳琴、リーダー名はマックという可愛らしい（笑）女の子です！マックは岩手看護短期大学看護学科の2年生で、彼女自身が小学生の頃YMCAにお世話に

なっていたようです。

マックはわたしと同じく、主に野外活動に参加しています。看護学生ということもあり、忙しさのため野外活動にしか参加できない分、毎回の活動で子どもたちと全力で向き合っただけで遊んでいる所を見て、すごいなあ毎回思います。マックは子どもたちだけでなくリーダーたちとも距離を近づけるのが上手なので、はじめましての子もマックとならすぐに仲良くなれているような気がします！その能力のおかげで早くも新入生とも仲が良くなっているように思えます。わたしもその能力にほだされたうちの一人です（笑）

そして、最近20歳の誕生日を迎えたマックは、また一味違います。ここ数ヶ月一緒にいる機会が増えているわたしが言うので間違いありません！次に会う時にはいつもと違うマックが見られるでしょう！そんなマックをよろしくお祈りします。以上メカでした～！

右がメカリーダー、左がマックリーダー。 →



ぶらいむ・たいむ前潟校に、畑が誕生！！

2016年春、「ぶらいむ・たいむ前潟校のメンバーに土いじりの楽しさを学んでもらいたい！」「野菜が出来る過程を自分たちの目で見て、食糧の大切さを学んでもらいたい！」という思いから、岩手県に諸葛川河川敷の使用許可をいただき、畑の開墾と野菜の植え付け、水やり等が始まりました。

初めは、草の生い茂る河川敷でしたが、草刈り、石拾い、土づくりの工程では、ご近所の方にたくさん声をかけていただき、その都度「いいですね」「楽しみです」というお言葉をいただきました。さらに、株式会社みちのくクボタ様より、ハンディ耕運機を納品いただき、さらに作業のスピードが上がっていききました。

そして、理事である角谷先生に手ほどきをいただきながら、子どもたちの手で、ラディッシュの播種を行い、続いて、ミニトマトやジャガイモなどの定植を行いました。初めての収穫は6月8日。自分たちの畑で栽培をした、ラディッシュを5・6年生に収穫してもらい、当日の参加者全員で食しました。実はあまり、食卓で見る機会の少ないラディッシュで

すが、子どもたちはとてもいい顔で、美味しそうに食べていました。また、収穫したラディッシュは各ご家庭にもお渡しし、夕食で召し上がったのお話もいただきました。現在は、毎日畑当番を各学年の交流になるよう縦割り班の形で行っており、石拾いや草取り、水やりなどを子どもたちの手で行っています。そのかきもあって、栽培している野菜たちはすくすくと元気に大きく立派に成長を続けています。

食の大切さを子どもたちに伝えていくこと、実際に土に触れる事、自分たちが手かけたものの美味しさなど、一つ一つに経験が子どもたちにとってかけがえのない宝物になるよう、共に野菜の成長を見守っていききたいと思います。前潟センターの畑の最終目標は「秋のお泊り会で自分たちがお世話した野菜で料理をする！」「自分たちの栽培したい野菜について調べて、自分たちで野菜作りが出来るようになる！」です。皆さんもぜひ、盛岡YMCAの畑をご覧ください。

ぶらいむ・たいむ前潟校 センター長 浅沼慧



開墾前の畑の様子。雑草が生い茂っていました。



耕運機を納品頂き、開墾作業もスピードアップ！



開墾作業を経て、ずいぶん圃らしくなりました。一面はミニトマト・ラディッシュ・じゃがいも・かぼちゃが植えられ、花が咲いたり、実がつけたりと植物の成長が見られます。



ぶらいむ・たいむ前潟校の子どもの様子。



こちらは畑に植えられたかぼちゃの様子。すくすくと育っています。



畑で収穫したラディッシュ、さっそくみんなでいただきます！

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 6月報告書

①いらっしゃい、インターン生！



今年も、盛岡YMCAは「住友商事 東日本再生ユースチャレンジプログラム インターンシップ奨励プログラム」に参加し、インターン生の受け入れを行っています。このプログラムは、岩手県・福島県・宮城県で3県で行われており、それぞれの県の複数のNPO法人がインターン生を受け入れています。

6月26日に、福島県にて、3県合同のインターン生入校式が行われました。これから9か月間という長期にわたるインターンシップに参加するインターン生たちは、期待と緊張が入り混じったような面持ちで入校式に臨んでいました。

盛岡YMCAが受け入れるインターン生は、大藤百華さん（岩手大学3年）と、川口奈恵さん（岩手県立大学4年）の2名です。大藤さんは宮古市出身ということもあり、宮古に貢献したいという熱い気持ちを見せてくれています。川口さんは、以前より盛岡YMCAの活動にリーダーとして活躍してくれており、もうすぐ行われる宮古市の子どもたち対象のキャンプでもディレクターを務めてくれます。これからの二人の活躍に期待です！

②サマーキャンプが始まります！

今年も、宮古の子どもたち対象のサマーキャンプを行います。場所は、毎年お馴染み、秋田県の「思い出の潟分校」！田沢湖での湖水浴など、楽しいプログラムが盛りだくさんです。

ディレクターを務める、インターン生の川口奈恵さん（チョップリーダー）より、コメントが届いています。



こんにちは！宮古キャンプのメインを務めるチョップです！！実は大きなキャンプのメインをするのは初めてなので、まさに不安と期待の気持ちとで一杯です！キャンプは人と関わる楽しさや、集団の中での守らなければ

いけないことなど、沢山のことを学べる絶好の機会だと思っています。今回は楽しさを感じながら、そのようなことも経験できるキャンプにしていきたいです！

そして普段体験できない田沢湖の自然豊かな環境の中で、子どもたちの目がキラキラするような発見や驚き、楽しさを食欲に追求していきたいと思います！よろしくお祈りします！！

③宮古サッカー、頑張っています！



毎週行われている、宮古小学校でのサッカースクール。参加人数もだんだん増え、現在は20名を超える賑やかなスクールとなっています。

今月は、盛岡から毎週宮古に来てくれるサトちゃんリーダー・ジョアリーダーに加え、地元ボランティアの「ほっちゃん」も飛び入り参加していただきました！

④「渚亭 たろう庵」にお邪魔しました

盛岡YMCAをサポートする「もりおかワイズメンズクラブ」は、今年で設立10周年を迎えます。9月に開催される10周年記念式典にてお話いただき、たろう観光ホテルの松本社長と打ち合わせに行ってきました。

津波で大きな被害を受けた「たろう観光ホテル」は、高台に移転し、「渚亭 たろう庵」として生まれ変わっていました。



↑ たろう観光ホテルの松本社長（左）と、ワイズメンズクラブの大関会長（右）



↑ たろう庵からは、太平洋が一望できます。

7月の予定

- ★7月15日(金)
金曜水泳I期終了
篠木スクールI期終了
盛北スクールI期終了
- ★7月16日(土)
本町スクールI期終了
- ★7月17日(日)～18日(月・祝)
わんぱくキャンプ
(於: 都南つどいの森)
- ★7月19日(火)
火曜水泳I期終了
- ★7月20日(水)
水曜水泳I期終了
盛南スクールI期終了
- ★7月21日(木)
高松スクールI期終了
向中野スクールI期終了
- ★7月25日(月)
土淵スクールI期終了
月曜水泳I期終了



君でいいんだよ ～JUST THE WAY “YOU” ARE ㊂～

「不器用のすすめ」



以前からそうだったが、最近特にお腹回りのお肉が気になってきた。「美スポ! スポーツできれいに!」という番組で、フラフープの特集をしていた。フラフープはかなり効果があるらしい。女優の鈴木砂羽さん、タレントの濱田マリさん、お笑いコンビ、「たんぽぽ」の川村エミコさんが、先生の指導のもと、美容にいいスポーツにチャレンジしていく構成だ。

フラフープは3人とも始めてだったみたいだが、川村さんはすぐできるようになった。一方他の二人はなかなかうまくいかない。先生の「体の軸を意識して」というアドバイスを受けてなんとかできるようになっていった。次のレッスンに移っても川村さんはパワーをいかしてどんどんこなしていく。鈴木さんたちは、ついていくのが精一杯。

ところが最後のレッスン、両腕を上げてフラフープを回すという課題になると立場が逆転した。川村さんは体の軸を中心に回していたのでは

なく、力と早さで回していたのだ。

YMCAで活動を行う中で多くのこどもたちに出会ってきた。スポーツ、お勉強、野外活動等様々な場面ですぐ出来る子もいれば、なかなかできない子もいる。当然出来ない子は、悔しそうだし、悲しそうだ。

しかし、「できない」ということは、実は大切な要素が一杯つまったプレゼントだ。「他者のアドバイスを耳を傾けること」「自分で考えて工夫してみること」「あきらめずにチャレンジし続けること」、そこには長い人生を生きて行く上で必要なエッセンスがたくさん含まれていると思う。得手不得手は、人によってそれぞれだ。しかし、不得手なことを克服した時の喜びは大きい。

すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

(口語訳聖書 新約 コリント信徒への手紙② 12:9)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

インドでゴリナも考えた。④

インドスタディキャンプに参加したゴリナリーダーこと武田悠さん(岩手大学4年)より、報告第4弾です!
今回は、インドの物乞いについてのお話です。

初めての寝台列車で、とてもウキウキしていた私たち。和気あいあいと初めて出会った今回のキャンプの受け入れ責任者であるスレッシュと話をしていた。すると、物乞いをする人が現れた。スレッシュや近くで一緒に話をしていたインドの人たちも急に静かになった。なぜ誰も何も答えないのか?物乞いをする女性の腕には生きているのかすら分からない赤ちゃんがいた。物乞いが去った後、スレッシュにそうした疑問を投げかけた。すると、「物乞いはビジネスであり、違法だ。腕のない赤ちゃんやケガをしている赤ちゃんはレンタルされ、その子を抱きながら物乞いをするので同情を誘う。」と教えてくれた。だが、私は本当に困っている人も中にはいるのではないかと気になった。するとスレッシュは、「本当に困っている人たちは、国から保障されている。申請することで住む場所、食べ物、ちょっとのお金が支給されるようになっていくよ。障害をもっている人も同じだ。」では、なぜ物乞いは減らないのだろうか?スレッシュは、「人口が多く、その上80%が身分の低い人たち。国があまりお金を出すことができなかったりと、支給物の不足もあるかもしれない。そのため物乞いをしたほうがお金を稼げる現実があるのかもしれない。」と教えてくれた。

スレッシュと話をするまで、物乞いの人には、本当に困っている人たちだと思っていた。そうした、私たちのような無知な観光客を狙って物乞

いをする人が多いようで、観光地などが人が集まる場所で行っているようだ。また、そのお金は、自分自身のお金になるのではなく、ビジネスの取り締まるボスがいるようで、その人に渡すことで報酬をもらっている人もいるようだ。裏社会を感じさせる話でとても驚いた。国ごとに抱えている問題はこんなにも違う。

こうしてインドの社会状況を知っていくごとにたくさんの疑問が次から次へと生まれてくる。どうしたら物乞いはなくなるのか?裏にいるボスとはどんな人なのか?こうした感覚は初めてだった。今まで経験したことのない出来事や、体験、文化に触れ、理解しようにもすべてを理解しつくせないどこか寂しい感覚に陥った。所詮、私は日本人であり、インドの人たちにはインドの人たちの習慣や、文化がある。たった2週間ちょっとじゃ、慣れるので精一杯だ。ただ、こうした経験を通して、理解しようとする姿勢が大切なのだと思った。そこからしか得られない気づきや、学びがたくさんあるからだ。そうした姿勢を日本にいてもなお、大切にしていきたいと思った。



こちらがインドの寝台列車のようす。

表紙の写真から



ぶらいむ・たいむ前潟校の畑にて、ラディッシュの収穫の様子です。

- 熊本地震被災YMCA支援募金
家村知佳、石崎真珠、伊藤真一郎、伊藤愛美、岩井和己、鶴丹谷三千代、遠藤昌輝、大開晴二、尾形裕一郎、小川明佑、小川嘉文、工藤泰、高橋亜也子、滝川佐波子、濱塚真美、濱塚有史、早坂春希、女鹿乃々華、盛岡YMCAリーダー会、四元尚志、吉田琥太郎



- 東日本大震災被災地支援募金・献品
飯島隆輔、私立捜真小学校
- 熊本地震・YMCA救援・復興募金
家村知佳、石崎真珠、伊藤真一郎、伊藤真太郎、小畑孝子、北田アユ子、君塚彩、熊谷亜希子、熊谷力實、野香代子、昆野瑞紗、清水弘一、菅恵、名古屋恒彦、増田隆、松尾聡子、吉田航平、吉田美波

- 寄附金
池田二郎、伊藤克見、熊谷圭祐、熊谷紗希、熊谷力實、昆野香代子、佐藤翔、高瀬裕彦、花田暉、人見晃弘、光永尚生
- 維持会費
飯島隆輔、池田二郎、一戸貞文、伊藤真一郎、伊藤真太郎、伊藤愛美、伊藤みどり、井上浩太郎、井上修三、井上優子、大関晴二、尾形裕一郎、小川明佑、小川嘉文、小澤聡、レナード、押切梓、小山憲彦、川坂保宏、北田アユ子、熊谷圭祐、熊谷映希、熊谷力實、昆野香代子、佐藤翔、清水治彦、高瀬裕彦、長岡和義、名古屋恒彦、花田暉、濱塚真太郎、濱塚真美、濱塚有史、林辰也、人見晃弘、松尾聡子、増田隆、光永尚生、守下昌輝、森山日菜乃、森山幹大

感謝
(2016年度6月27日現在)
五十音順・敬称略